**長岡天満宮**

長岡京市にある長岡天満宮では、現代において学問の神として崇められ、天神と呼ばれている菅原道真を祀っています。.天神の社らしく、テスト前や受験前の合格祈願のために参拝に訪れる学生には特に人気です。長岡天満宮の最も有名な特徴のひとつは、4月下旬に、神社の大きな池を渡る参道に沿って咲き誇る樹高の高い真っ赤なツツジの群生です。

**天神の伝説と長岡天満宮**

菅原道真（845年～903年）は、優れた学者で詩人、そして高位の政治家でした。菅原は宇多天皇（867年～931年）の朝廷において臣下として重用されていましたが、天皇の退位後、政敵からの政治的な陰謀に巻き込まれ、九州の遠方に流刑となりました。途中、菅原は友人らと余暇を過ごしていた長岡京に立ち寄り、「我が魂長くこの地にとどまるべし」と悲しげに名残惜しんだと言われています。

菅原が流刑先で亡くなった後、相次いで京都で自然災害や不幸な出来事が起こったことから、屈辱を受けた官吏が怨霊になったと信じられるようになりました。菅原の怒りを鎮める試みが何度も失敗した後、朝廷は菅原を学問の神・天神として神格化しました。以来、天神を祀る神社が数千社、全国に設立されました。

**八条ヶ池とキリシマツツジ**

最初の鳥居から本殿に至る参道は、1638年に灌漑用の溜め池として作られた大きな八条ヶ池を越えて続きます。池の片側には、近隣の懐石料理を提供する料亭のお座敷が水上の支柱に建っています。春の境内には桜や菖蒲、ツツジが咲きますが、季節の花として最も有名なものは鮮やかな赤いキリシマツツジです。池を渡る参道に沿って並ぶ背の高い茂みは2.5メートルを超える所もあり、樹齢170年を超えると考えられています。

**本殿と梅**

境内をさらに進み、階段を上がり、紅葉を楽しむために最近作られた小さな庭園のそばを通り過ぎると、本殿があります。この朱塗の建物は、1941年に平安神宮から移築された京都府の有形文化財です。両側には菅原道真が好んだ4本の梅の木があります。近くには天神の遣いである牛の石像があり、周辺にも他の牛の像がいくつか見られます。

本殿から左手に小道を進むと、農業の神を祀る長岡稲荷大明神という末社があります。その向こうには、約300本の梅林があり、八重の花を咲かせる八重梅やしだれ梅、香り豊かな豊後梅、果実を実らせる南高梅、ピンクと白の花を咲かせる品種「思いのまま」、花が桜に似ている桜梅、鮮やかな紅梅、そしてその他にも数品種の梅があります。開花時期は3月上旬頃で、梅林の外周にベンチが設置されているので、ゆっくりと花を鑑賞することができます。長岡天満宮と梅林の入場は無料です。